



平成30年度「不登校を考える学習会」(第2回目)を行いました

演題：不登校支援の輪を広げよう ～新学期を迎え不安な皆さんへ～

講師：不登校生保護者の会「ぼちぼちの会」会長 木村 素也さん

平成30(2018)年8月24日(金)：小郡市人権教育啓発センター

2学期を控え、「学校が始まる」ということに対して不安をもつ子どもや保護者の気持ちを少しでも軽くできれば…といった思いで企画をしました。不登校の当事者・保護者、区長、民生児童委員、学校関係者、行政職員など39人が参加しました。

講師の木村先生は「まずは、大人が『学校に行くべき』という固定観念を捨てることも必要。不登校の子は、あまり自殺をしない。『学校を休むことはいけないこと』と思い追いつめられた子どもが自殺をする。子どもがSOSを出せる環境を大人がつくってあげることが大切です。」と話されました。

また、不登校生への対応については、「不登校生のプライドを守ることが大事。例えば『宿題はできていなくてもいいからとにかく学校においで。』ではなく、出せる態勢をつくったり、宿題を提出する際に配慮したりするなど、その子の困り感は何なのかを見とり、その困り感を1つでも取り除くことが大切です。」とも話されました。

「不登校生に限らず、子どもたちは経験が少ないので生きていく上での不安を抱えています。そんな中に、大人が『正解』を選ぼうと・選ばせようとしていませんか？子どもをコントロールしないで『今やっていることが正解だよ。』という考え方で子どもたちを見守りましょう。」と結ばれました。

子どもたちを見守るわたしたちに多くの示唆をいただいた有意義な学習会でした。



【講演中の 木村 素也 さん】



【講演後は悩みなどの交流を行いました。】

《参加者のアンケートより》



新聞で10代の子どもの自殺が減っていない、微妙に増えていると書いてありました。心が痛みます。子どもがSOSを出せるよう大人側がゆっくり話を聞く姿勢が大切だと思いました。

宿題・対人関係・学力など全部でなくてもいいので、1つでも取り除いてあげることが大切だというお話にそうだなあーと思いました。好きなものから少しずつ関係をつくっていこうと思いました。